

- 教員の多忙化改善に向けた取り組み
- 学力向上総合対策事業
- 「主体的・対話的で深い学び」につながる学習指導の在り方／教育課程研究委員会
- 「第6回科学の甲子園」全国大会／県立甲府南高等学校
- 大村智自然科学賞
- ひばりが丘高校うどん部／県立ひばりが丘高等学校
- 目指せ！やまなしチャンピオン！事業
- 博学連携の取り組み／県立考古博物館
- 学校教育を支援し、教職員の資質向上に資する研修会を目指して
- 学校紹介／甲州市立神金小学校・甲府市立富竹中学校
- 県立美術館特別展 フジフィルム・フォトコレクション「私の1枚」日本の写真史を飾った101人
- 県立文学館特設展「作家のデビュー展」
- 県立博物館企画展「人類と宇宙－星空をめぐる歴史物語」
- 県立博物館シンボル展「地下鉄90年－早川徳次、東京の地下を拓く－」
- 山梨県近代人物館紹介／山梨県指定文化財としての県庁別館
- 山梨の文化財／木造勝軍地蔵騎馬像 一驅 附 宮殿組物二組 狛犬二驅
- 家族で元気UP！教室
- 「青少年の非行・被害防止県民大会」の開催にむけて
- かいじあむの夏まつり（8月）
- 県立考古博物館開催の講座合・セミナーのお知らせ
- 新教育委員が就任しました
- 訪問型特定保健指導について
- ホームページ紹介／北杜市立武川小学校・大月市立大月東中学校
- 「第3次山梨県子ども読書活動推進実施計画」策定のお知らせ
- 「やまなしワクワク子育て親育ちプログラム」の活用について
- 県立博物館協力員募集のお知らせ

Click!

※指定ページにジャンプします



作品タイトル 「生命の回帰」

山梨県立吉田高等学校

第3学年 渡邊 京子

指導者：古屋 恵理 教諭

(平成28年度山梨県高等学校芸術文化祭  
美術工芸部門優秀賞)

山梨県教育委員会

# 教員の多忙化改善に向けた取り組みについて

## 教育委員会事務局

### 1 はじめに

平成25年に実施されたOEC D国際教員指導環境調査（中学校教員対象）では、日本の教員の1週間当たりの勤務時間が参加国最長（日本53.9時間、参加国平均38.3時間）であることが示され、近年、教員の多忙化改善が我が国でも大きな課題となっています。

平成26年度に実施した県教育委員会のアンケート調査でも、各校種平均で約6割の教員が2時間以内の時間外勤務、約3割が2時間以上の時間外勤務を行っているなど、「時間外勤務の常態化」や「時間外勤務の多い教員の固定化」が課題として挙げられました。また、部活動指導などによる「週休日の勤務への負担感」、「年休取得が困難」といった職員の意識なども明らかになりました。

文部科学省では、平成28年6月17日付通知「学校現場における業務の適正化に向けて」において、都道府県教育委員会に対し、市町村教育委員会と連携の上、学校現場における勤務環境の改善を促進するための連携体制の構築と、市町村教育委員会や各学校に対する継続的な支援の推進を求めています。

このような状況を踏まえ、県教育委員会でも、昨年10月に「教員の多忙化対策検討委員会」を設置しました。小中学校長協会や県立学校長協会、市町村教育委員会連合会の代表者等にも委員として参加をいただき、協議を重ね、その成果をとりまとめ、本年3月に「教員の多忙化改善に向けた取組方針」を策定しました。

### 2 取り組みの概要・スケジュールについて

「取組方針」の基本的な考え方は、各学校の多忙化改善の取組推進を全県的、継続的に行うため、各学校への支援に向けて県教育委員会事務局、教育事務所、総合教育センターが一体となり、市町村教育委員会と密接に連携するとともに、関係諸団体への働きかけやPTA団体との連携も図りながら、総合的に取り組むことを目指しています。

平成29年度より平成32年度の4年間を取組の実施期間とし、下図の工程表のとおり、各年度毎に改善計画を作成し、その計画に基づいて、取り組んでいきます。PDCAサイクルにより、各年度末には、計画の達成状況について検証を行い、次年度には課題の解消を目指します。

当該年度の「改善計画」及び前年度の「達成状況」については、各年度5月までに、各教育委員会、学校のホームページや学校だより等により公表するよう努めます。

#### (3) 多忙化改善の主な取組工程表

		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度～平成32年度
県教委事務局	① 多忙化対策検討委員会	●設置	●年複数回開催	●年複数回開催	●年複数回開催
	② 取組方針策定	●策定・周知	●改訂	●改訂	●改訂
	③ 特定課題検討ワーキング	●設置・開催	●開催	●開催	●開催
	④ 県教委主催会議・研修・調査等の効率化	●実施状況把握	●効率化目標設定 ●効率化検討	●効率化目標設定 ●効率化検討	●効率化目標設定 ●効率化検討
	⑤ 関係団体への働きかけ		●調査結果の検証		
教育事務所	① 市町村教育委員会との連携による小中学校への支援		●改善計画集約 ●検証	●改善計画集約 ●検証	●改善計画集約 ●検証
	② モニタリング校の状況把握		●集約・県教委への提出 ●検証・指導	●集約・県教委への提出 ●検証・指導	●集約・県教委への提出 ●検証・指導
総合教育センター	① 研修会の精選	●eラーニングの導入	●eラーニングの拡充	●eラーニングの拡充	●eラーニングの拡充
市町村教委	① 多忙化対策のための組織づくり		●設置 ●計画的開催	●改編 ●計画的開催	●改編 ●計画的開催
	② 改善計画作成・検証・公表		●作成・小中学校への作成依頼 ●検証・修正	●作成・小中学校への作成依頼 ●検証・修正	●作成・小中学校への作成依頼 ●検証・修正
	③ 主催会議・研修会、調査・報告書等の効率化				
	④ 外部人材の活用促進				
学校	① 多忙化対策のための組織づくり		●設置 ●定期的開催	●設置 ●定期的開催	●設置 ●定期的開催
	② 改善計画作成・検証・公表		●作成 ●実施・検討 ●検証作成	●公表 ●実施・検討 ●検証作成	●公表 ●実施・検討 ●検証作成

### 3 平成29年度の各主体の主な取り組み

#### (1) 県教育委員会

県教育委員会では、本年度は「教員の多忙化改善推進検討委員会（仮称）」を設置し、「取組方針」に基づく各主体の取り組みの進捗状況の把握とその推進についての検討を行うとともに、必要に応じて「特定課題検討ワーキング」を設置・開催し、課題の解消に向けて、また、各主体の取り組みが有意義なものとなるように支援や助言を行っていきます。

また、昨年度と同様に県教育委員会主催の会議・研修会及び調査等の実施の効率化に努めるとともに、部活動指導の負担軽減のため、適切な休養日の設定や外部人材の活用促進などの改善策への取り組みに支援・助言を行います。併せて、各競技団体等関係機関に大会日程などの設定について、顧問の負担軽減に向けた理解と協力を求めています。

#### (2) 市町村教育委員会

年度当初に、教育委員会内に多忙化改善対策のための委員会等の組織を設置し、「取組方針」を踏まえ、各市町村教育委員会が独自の「改善計画」を5月末までに作成します。そしてその計画に基づき、6月から取り組みを推進し、年度末に検証と改善を行います。

管下の小中学校に対しては、多忙化改善組織の設置と「改善計画」作成を依頼し、達成状況を把握するとともに、学校訪問等を通じて必要な支援・指導を行います。また、管下の小中学校の中にモニタリング校を指定し、「改善計画」と達成状況について、教育事務所を通じて県教育委員会に報告します。

#### (3) 学校

年度当初に、多忙化改善対策のための委員会等の組織を設置し、「取組方針」を踏まえ、各校の業務改善に向けた具体的な方策をまとめた「改善計画」を5月末までに作成します。6月からは、その計画に沿って取り組みを推進し、年度末に取り組みの検証・評価を行います。県立学校は、県教育委員会に、また、小中学校のモニタリング校は、教育事務所を通じて、県教育委員会に「改善計画」およびその達成状況を報告します。

各校においては、会議等の効率化、学校行事の負担軽減、校内組織の見直し、各係分掌の業務の効率化、部活動負担の軽減、地域人材の活用など、「取組方針」に掲載されている事例や様式を参考に、学校や地域の実態に即した、実効性のある取組を工夫して進めていただき、自校の多忙化解消、児童生徒と向き合う時間の確保に努めていただきたいと思います。

また、学校としての取り組みとともに、私たち教員一人ひとりの意識を変えていくことも大切です。自身の勤務や生活を振り返り、長時間勤務の疲労感・負担感の改善を意識し、自らできることに取り組むことで、意欲的に子どもの教育に向かう時間を創り出すことができるはずです。「取組方針」にある「自己評価リスト」などを参考にしてみてください。

#### VI 教員の意識改革のための自己評価リスト 10項目

No.	自己評価項目	H29	H30	H31
1	学校行事等が終了後、速やかに次年度に向けた業務の改善点をまとめて報告している。			
2	会議資料等は事項別かつ時系列でファイルにつづり、すぐに確認できるようにするなど、日頃から整理整頓に努めている。			
3	仕事に優先順位をつけ、業務毎にスケジュール管理を的確に行い効率化を図っている。			
4	提出期限がある書類等については、期限までに確実に完了できるよう計画的に業務に当たっている。			
5	ワークライフバランスを念頭に、計画的に年次有給休暇を取得している			
6	会議等の開始時間を厳守し、発言する際には要点を押さえ簡潔な説明を行うなどタイムマネジメントの意識を持って会議等に臨んでいる。			
7	定時退校日には、定時に降早めに退校できるよう、見通しを持って効率的に業務に当たっている。			
8	会議や学校行事等の精選、効率化によって生み出された時間は、他の業務に当てず、児童生徒と向き合う時間にあてている。			
9	業務改善の方策について管理職に提案し、学校経営マネジメントに参画しようとする意識がある。			
10	学年や分掌の業務について、一人で抱え込まず、協働、協力して効率よく業務が推進できるよう相互に助け合って仕事に取り組んでいる。			

【評価基準】 ○実行できている。  
 △実行しているが不十分である。  
 ×実行できていない。

#### 県教育委員会ホームページ（取組方針掲載）

<http://www.pref.yamanashi.jp/kyouikusom/somkikaku/somkikaku/taboukakaizen.html>

Click!

# 学力向上総合対策事業

## 義務教育課

県教育委員会義務教育課では、学習方法や学校環境を整え、市町村や学校と連携し、学力向上や新たな学校づくりに主体的、意欲的に取り組むことにより、「教育先進県やまなし」の実現を目指しています。

中でも学力向上に関しては、全国学力・学習状況調査の結果等を踏まえ、【授業改善】【教員の資質向上】【家庭・地域との連携】を柱に、「山梨県学力把握調査事業」「学力向上推進事業」「学力向上アクティブ・ラーニング推進事業」「授業力養成事業」「ミドルリーダー研修事業」「若手教員グローアップ事業」「学力向上フォローアップ事業」「小中連携研究協議会開催事業」「家庭学習定着促進事業」の9つの事業を関連させて実施するとともに、全ての小・中学校で、調査から明らかになった課題を克服するために、授業を改善していく「一人一実践」に粘り強く取り組んでいます。



### 取組の柱 I 【授業改善の取組】

#### ①山梨県学力把握調査事業

- ・同調査の実施とその結果を生かした授業改善を推進します。

②学力向上推進事業

- ・「学力向上対策会議」を開催し、4名の学力向上アドバイザーから助言をいただき、学力向上総合対策事業の円滑な推進を図ります。
- ・「学力向上フォーラム」（9月8日(金)）を開催し、講師による基調講演やシンポジウム、実践発表等を行い、確かな学力の定着と向上を図ります。

③学力向上アクティブ・ラーニング推進事業

- ・アクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）の視点からの授業改善や新学習指導要領への対応の在り方について、研究校を指定し、実践を通して明らかにします。

**取組の柱Ⅱ【教員の資質向上】**

④授業力養成事業

- ・各教科等における教員の授業力向上に資する授業力養成講座を実施します。

⑤ミドルリーダー研修事業

- ・中堅教員の更なるスキルアップを図り、経験年数に対応した系統的な研修を通して、教師としての資質を効果的に高めます。

⑥若手教員グローアップ事業

- ・期間採用者も含め、採用3年目までの若手教員に対し、年数回に渡って指導教員を派遣し、授業力の向上を図ります。

**取組の柱Ⅲ【家庭・地域との連携】**

⑦学力向上フォローアップ事業

- ・放課後や土曜日等を活用し、希望する児童生徒に補習的な学習の支援を行います。

⑧小中連携研究協議会開催事業

- ・県内外の先進事例を参考にしながら、小・中学校間で指導内容や指導方法について共通理解を図り、学力向上に繋げるための研究協議会を開催します。

⑨家庭学習定着促進事業

- ・県内外の学校で取り組み、成果を挙げた家庭学習を促進した事例をまとめ、県下の全小中学校に『実践事例集』として配付し、これを参考に自校の取組を一層充実するようにします。
- ・H28年度に全小・中学生に配付した『家庭学習のすすめ～学びの甲斐善八か条』に具体的な事例を加えた増補版の冊子を配付して、さらに家庭学習が充実するようにします。

(②学力向上推進事業)

- ・「学力向上の集い」を開催し、地域の学力に関する課題に応じたテーマに基づき、地域学力の向上担当者（地域学力向上推進幹）等を中心に保護者や地域との連携により確かな学力の定着と向上を図ります。

\* これら以外にも、県内の全小中学校に配付した学習資料『ふるさと山梨』を使った郷土学習を促進する事業や、児童生徒が言語活動に効果的に取り組むための資料として作成、配付した『言語活動ハンドブック（小学校版）』を改訂し、考える授業づくりを進める事業などにも精力的に取り組んでいきます。

\* さらに、こうした事業だけでなく、県内全ての小・中学校では、教員全員が、生徒の学力調査等で明らかになった課題の改善に取り組む「一人一実践」を実施しています。今後も、山梨の児童・生徒の学力向上を目指し、全力で取り組んで参ります。

## 教育課程研究委員会

義務教育課

### 「主体的・対話的で深い学び」につながる 学習指導の在り方

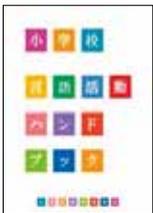


リニューアルした教育課程HP

教育課程研究委員会では、「学習指導要領に基づいた教育課程の一層の改善を図るため、学習指導の工夫・改善や適切な評価の在り方等について研究し、その成果の普及を図る。」ことをねらいとし、県内の教員と指導主事が共に研究を進めています。

昨年度は、全県の小中学校から95名の先生方に委員を委嘱し、新学習指導要領の告示に向けて、26部会が5回の研究会を開催しました。

昨年度の研究のポイントは以下のとおりです。



#### 1) 他事業との連携

アクティブ・ラーニングの基礎となる言語活動の充実に取り組みました。言語活動推進協議会と連携して研究会を開催し、「言語活動ハンドブック」を活用した実践を全教科等で行いました。

#### 2) 効果的な資料作成

毎年、先生方の授業改善に資する資料の作成に取り組んでいます。

- ・「教育課程指導資料」 中教審論点整理などをまとめました。できるだけ図表を増やしてビジュアル化を図りました。
- ・「映像資料」 実践事例を紹介する映像資料の作成に取り組みました。中教審答申、新学習指導要領の方向性を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」を目指すための実践事例を総合教育センターのHPから閲覧できるようにしました。また、HPを全面的にリニューアルし、スマートフォンやタブレットでも閲覧できるようにしました。



教育課程指導資料



映像資料



#### 3) 研究成果の紹介

2月26日に県内全小中学校の研究主任を対象とした「言語活動研修会」を開催しました。3名の教育課程研究委員（小学校音楽科、家庭科、中学校数学科）による実践事例を基にフロアの先生方も交えてパネルディスカッションを行いました。岩永正史・山梨大学教授からも助言をいただき、言語活動の必要性について考えました。

## 「第6回科学の甲子園」全国大会

～ 広げよう科学の輪 活かそう科学の英知 ～

県立甲府南高等学校

### 1 はじめに

平成29年3月17日（金）から3月20日（月）まで茨城県つくば市で第6回科学の甲子園全国大会が開かれました。本校は、第3回大会以来2度目の出場となりました。全国の科学好きの高校生との出会いや、競技での奮闘ぶりを紹介します。ちなみに、右は科学の甲子園のイメージキャラクターで2011年当時の兵庫県立伊川谷北高等学校の久宗千夏さんの作品です。『ひらめき』の「あっ!」、『ピンと来た』の「ピン」、パワーアップの「アップ」から生まれたそうです。



イメージキャラクター「アッピン」 © JST

### 2 「科学の甲子園」とは？

「科学の甲子園」は科学好きの裾野を広げるとともに、トップ層のさらなる学力伸長を目的として、高校生等を対象に平成23年度に創設されました。競技の内容は、高校生8人を上限としてチームを編成し、理科・数学・情報の各分野での知識と技能を競い合います。

第6回全国大会には、過去最高の参加校数となった682校から8,244名のエントリーがあり、各都道府県の選考を経て選抜された47校、合計361名の高校生達が、科学に関する知識とその活用能力を駆使してさまざまな科学的課題に挑戦しました。山梨県予選も過去最高の39チームが参加し、全国大会と同様に筆記競技や実技競技を2ステージ制で行い、年々盛り上がりを見せています。

### 3 全国大会の様子

筆記競技と3つの実技競技の得点を加算した総合成績により順位がつけられますが、6回連続出場の県立岐阜高等学校は、V2を狙い今年も4競技中2競技を征した海陽中等教育学校を抑え、悲願の初優勝を遂げました。本校は、筆記競技で上位10位入賞のチームと同等の成績でスタートを切ったものの、地学領域と事前公開資料のもと行われる実技競技で思うように得点が伸ばせず、前回出場の第3回大会の成績を上回ることができませんでした。

#### (1) 競技選手について

チームのメンバーは必ず1競技以上に参加します。筆記競技は6人、実技競技①と②は3人、実技競技③は4人で臨みます。競技初日は、午前8時50分から午後6時30分までに筆記競技から実技競技②までの3種目、翌日実技競技③がそれぞれ行われました。各競技の難易度は高く、メンバー個々の得意な領域の活かし方や苦手な領域の補い方を考慮しながら、どの競技に誰が参加するのかといった所からすでに競技が始まります。



出場メンバー



開会式後の交流会

## (2) 筆記競技

時間は120分で、物理・化学・生物・地学・数学・情報の各領域2題、合計12題が出題されました。シリンダー型スペースコロニー、日本で初めて刊行された化学書「舎密開宗」、東京2020大会オリンピックエンブレム等多様な領域から出題されました。

## (3) 実技競技

### ① 「袋田の滝の凍結」

ビフェニル  $C_{12}H_{10}$  を溶媒として、2種類の未知の物質 X、Y を溶質とした溶液の凝固点を測定する実験を行い、X、Y を同定する内容でした。

### ② 「進撃のダイナ走ー」

我々の身体の部位の規則性を確認して、恐竜等の化石から得られるデータ（四肢骨の長さ・足のサイズ・歩幅等）から無次元化という方法でかつて地上を謳歌していた恐竜やアファール猿人の歩行速度を再現する内容でした。

### ③ 「ばんえい競争 in つくば」

事前に競技資料が参加校に送付され、全国大会が始まるまでは、情報を得る方法や、試行回数等準備に制限はありませんが、当日は、150分の間に材料から制作と試走を行うものです。テーマは、ペルチェ素子のゼーベック効果を利用した熱電発電をエネルギー源として、4足すべてにモーターの動力を伝える方式の4足歩行ロボットを作成し、勾配が最大5%の上り坂を含めた4mのコースのタイムレースでした。

## 4 おわりに

ここに、大会に参加した生徒たちの感想を紹介します。

- ・ 県予選や全国大会を通して、ただ解くための問題ではなく、科学を堪能できる出題がなされ非常に楽しみながら取り組むことができました。また、全国大会に集う仲間と出会えたことは、将来研究者として働きたいと考えている私にとって、コミュニティを作るという部分で非常に意義深いものとなりました。
- ・ 県大会よりもさらに難易度が高く興味深い問題に触れることができました。様々な領域の総合的な問題を、仲間と試行錯誤し知恵を振り絞って考える経験はとても良いものとなりました。
- ・ 全国大会だけあって、灘、東大寺、ラサール、栄光学園といった著名な高校ばかりが出場していました。正直その雰囲気には最初は飲まれていましたが、宿舎等で全国の仲間と話をする機会もあり、「日本には面白いヤツがいるなあ。」とつくづく感心しました。僕にとっては、言葉では言い表せないほど濃厚な時間を過ごすことができました。是非後輩にも全国大会に出場して欲しいと思います。

大会を終えて、生徒達は見違えるほど成長した姿を見せてくれました。全国大会に参加した高校生達は、科学に対する興味・関心が高く、実験の結果に限界を設けず、とことん追求するといった姿勢を見せていました。良い刺激となりました。最後に、このような機会を生徒達に提供してくれた、県予選から大会運営等に関わってくださった皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。



フェアウェルパーティで全国に山梨を紹介

## 大村智自然科学賞 ～次世代を担う子供達へ～

教育庁高校教育課

### ● 賞について

大村智自然科学賞は、県内の中学生・高校生等の理科・数学及びこれらに関連した分野に対する興味・関心や知的探究心をより一層高めるとともに、新しい才能や可能性を発見し、先端科学技術の発展に寄与できる人材の育成を図ることを目的として平成28年度に創設されました。



記念品の楯

#### ◆平成28年度（第1回）の実施状況

- 応募総数 中学部門 10 高校部門 2
- 受賞者
  - 【中学部門】 北杜市立甲陵中学校3年 佐藤 瑞木さん  
主な受賞歴  
・平成28年度山梨県児童・生徒理科自由研究発表会・優秀賞  
研究テーマ 「尾白川流域に住む動物の肩甲骨」
  - 【高校部門】 山梨県立韮崎高等学校3年 小澤 佳弘さん  
主な受賞歴  
・平成28年度SSH生徒研究発表会・審査委員長賞  
研究テーマ 「濃硫酸と希硫酸の境目はどこにあるのか？」

### ● 表彰式の開催

平成29年2月17日、山梨県庁の正庁にて第1回の表彰式が行われ、守屋守教育長より賞状・楯・副賞の図書券を授与しました。また、式には大村智先生が来賓として出席してくださり、受賞者した二人にあたたかい励ましの言葉をかけていただきました。



高校部門の受賞者・小澤佳弘さん  
(韮崎高校)と大村先生



表彰式での記念撮影



中学校部門の受賞者・佐藤瑞木さん  
(甲陵中学校)と大村先生

### ● 平成29年度（第2回大村智自然科学賞）について

7月上旬に県内全ての中学校・高等学校・特別支援学校に募集要項を配付予定です。

- 【募集区分】 中学生部門：1名または1組 高校生部門：1名または1組
- 【対象者】 推薦時に県内の中学校、高等学校、特別支援学校（中学部または高等部に限る）に在籍する者（当該在籍する者で構成するグループを含む）であって、次のいずれかに該当する者
  - (1)理科、数学及びこれらに関連した分野に係る全国又は県内の研究発表又はコンテスト等で優秀な成績を収めた者
  - (2)理科、数学及びこれらに関連した分野に係る調査、研究活動等を自主的または継続的に行い、その活動等に成果および努力が認められる者
- 【推薦方法】 所定の様式により学校長からの推薦による
- 【推薦期間】 10月上旬～11月下旬
- 【問い合わせ】 山梨県教育庁高校教育課内 大村智自然科学賞表彰事業事務局  
電話 055-223-1766

## ひばりが丘高校うどん部

～ 高校生の視点で地域貢献 ～

山梨県立ひばりが丘高校

### 1 紹介

ひばりが丘高校では、平成22年から富士吉田地域に根付く食文化「吉田のうどん」を中心に様々な活動をしてきました。「地域への貢献」を目標に、部活動と情報経理科の授業を連動させながら取り組んでいます。具体的な内容としては、①吉田のうどんフリーペーパー製作②ホームページ製作③プチ観光大使育成（うどん作りを通して情報発信者を育成する企画）④地域イベントへの出店（商工会議所との連携）⑤吉田のうどんに関する商品開発⑥吉田のうどん店のメニュー表製作等です。

### 2 主な活動①（フリーペーパー製作）

上記の活動の中で最も力を入れてきたのが、フリーペーパー製作です。発行当初は、2千部の発行がやっとでしたが、少しずつ周囲からの協力を得られるようになり、先日発行した vol.6 では6万5千部を発行することができました。現在は、自分たちで印刷費を稼ぐことを目指し、商品開発やイベントでの出店を重ねています。これらの成果が認められ、一昨年富士吉田市から「吉田のうどん観光大使」に任命されました。



観光大使任命式の様子

### 3 主な活動②（ホームページ製作）

本校が製作しているホームページは、前述のとおり「吉田のうどん」を中心に製作しています（掲載店数69店）。完成後は、店に引き渡すとともに、更新のための講習会を実施しています。また、吉田のうどんと密接な関係にある「郡内織物」や「御師の家」についてもホームページを製作し、各種コンテストで様々な賞を受賞することが出来ました。

### 4 主な活動③（プチ観光大使育成）

現在力を入れているのが「吉田のうどん」を全国に紹介しながら、文化継承する次世代を育成することです。具体的には、一昨年から実施している「うどん打ち体験」の受講者をプチ観光大使に任命し、みんなで情報発信するのです。私たちだけで発信をするよりも、大勢の市民が発信源となる方が効率はよく、地域を支える人材の育成にもつながります。この企画をスタートさせると、各方面から問い合わせがあり、これまでの参加者は400名を超えました。



プチ観光大使育成の様子

### 5 展望

活動は思いもよらない方向に広がるときもあり、TVの番組制作に協力してタレントさんをうどん屋へ案内したり、でんぱ組などのアイドルユニットとのイベントも舞い込んできました。時には、うどんづくり講習を兼ねた「婚活」パーティーも開催しました。また、2月からは伊藤忠商事との商品開発も進めており、地元企業のセルバやテンヨなどもこのプロジェクトに参加しています。

高校生として活動できることは限られていますが、高校生にしかできない取り組みは沢山あるはずで、今後も高校生ならではの視点で、地域の活性化に貢献していきたいと思っています。

# 目指せ！やまなしチャンピオン！事業

～「広げよう！ みんなで楽しむ 運動の輪」～

## 教育庁スポーツ健康課

### 1 はじめに

平成28年度の山梨県新体力テスト・健康実態の調査の結果では、本県の子どもたちの体力が、概ね改善傾向にあることがわかりました。また、運動習慣がある子どもは体力が高いことも明らかになっています。このため県教育委員会では、ゲーム性を持たせた運動記録に、グループで一体となって楽しみながら挑戦する機会を設け、児童全体の運動参加を促し、運動習慣の形成と更なる体力向上につなげることを目的に、今年度から本事業を進めていくことになりました。

### 2 事業の概要

【参加対象とチャレンジ種目】 県内の小学生全員が対象です。

チャレンジ種目		概要
区分	名称	
ランニング チャレンジ	ロングランニング	1週間（月～金）ランニングに取り組んで、全員の走った距離の平均で競う。
	30mシャトルリレー	1人が約30m走る折り返しリレーでタイムを競う。
ジャンピング チャレンジ	エイトマン	8の字とびを行い、3分間に何回とべるかを競う。
	短なわレディ GO	前両足とび、または前かけ足とびで、1分間に何回とべるかを競う。
	馬とび	2人で馬とびを行い、1分間に何回とべるかを競う。
スローイング チャレンジ	ドッジラリー	3分間キャッチボールを行い、何回できたかを競う。



「エイトマン」



「ドッジラリー」



「馬とび」

#### 【各種目の挑戦方法と結果の登録】

- 各学校で学級やたてわり班全員でチームを編成し、スポーツ健康課が県ホームページ上で公表する各種目のルールに基づき、適宜時間を設け、記録に挑戦します。
- 専用ホームページから記録申請様式をダウンロードし、各チームの月ごとの最高記録を学校単位で取りまとめ、ピーチウェアからスポーツ健康課に提出します。

#### 【記録認定と公表】

- 登録した記録については、スポーツ健康課において確認後、種目、学年別に、チーム名および学校名をホームページで公表します。

### 3 目指す子どもの姿

これら6つの「走・跳・投」の運動に学級全員で挑戦し、年間を通して取り組むことでバランスの良い運動習慣が定着していくと考えています。子どもたちが目標を持って運動に親しみ、その結果として本県児童生徒の体力向上につなげることを期待しています。

詳細は、県ホームページをご覧ください。

## 博学連携の推進

県立考古博物館

◆**考古博物館では、学校教育現場との連携を図るプログラムを多数用意しています。**

### 1、考古博物館と公園内の古墳を案内します

校外学習、社会科見学などで当館をご利用の際には、教育課程に合わせて古墳や館内の案内を行っています。

また、古代の生活を体験するメニューも用意されており、「火起こし体験」や古代のアクセサリ「勾玉作り」（別途材料費必要）などが行えます。

### 2、古代衣装のレプリカを貸し出しています

弥生・古墳・飛鳥時代の衣装を再現した古代衣装レプリカの貸出を行っています。社会科の時間や総合学習の時間に自分で着付けをし、試着して古代の生活を体感することができます。



▲職場体験の様子（展示室で学習）

### 3、職場体験、インターンシップを受け入れています

考古博物館では職場体験、インターンシップの受け入れを行っています。イベントの手伝いや収蔵品の展示作業など学芸員の仕事を幅広く学びます。実習時期・期間・時間などは考古博物館の行事日程を考慮しながら、可能な限りご要望にお応えしています。

### 4、「わたしたちの研究室」の作品を募集しています

総合学習の時間やクラス・学年での社会科の研究、夏休みの自由研究などで学んだ成果を発表する機会としてコンクール「わたしたちの研究室」を実施しています。

応募いただいた作品の中でも特に優れた作品は表彰し、研究発表をしていただくほか、賞の有無にかかわらず全ての作品を当館の展示室にて公開しています（※期間限定）。



▲昨年度最優秀賞・古屋さんの発表の様子

### 5、先生方の研修でご利用ください

考古博物館附属施設の風土記の丘研修センターでは、講堂、研修室の使用も可能です。お時間のあるときに見学にお越しください。

また、利用の申し込みは2ヶ月前から受け付けています。予め空き状況等をご確認のうえ、先生方の研修会、勉強会等で積極的にご利用ください。

問い合わせ先： 県立考古博物館 学芸課

TEL 055-266-3881

FAX 055-266-3882

風土記の丘研修センター

TEL 055-266-5286

FAX 055-266-5287

関連HP <http://www.pref.yamanashi.jp/kouko-hak/>

Click!

# 学校教育を支援し、教職員の資質向上に資する研修会を目指して

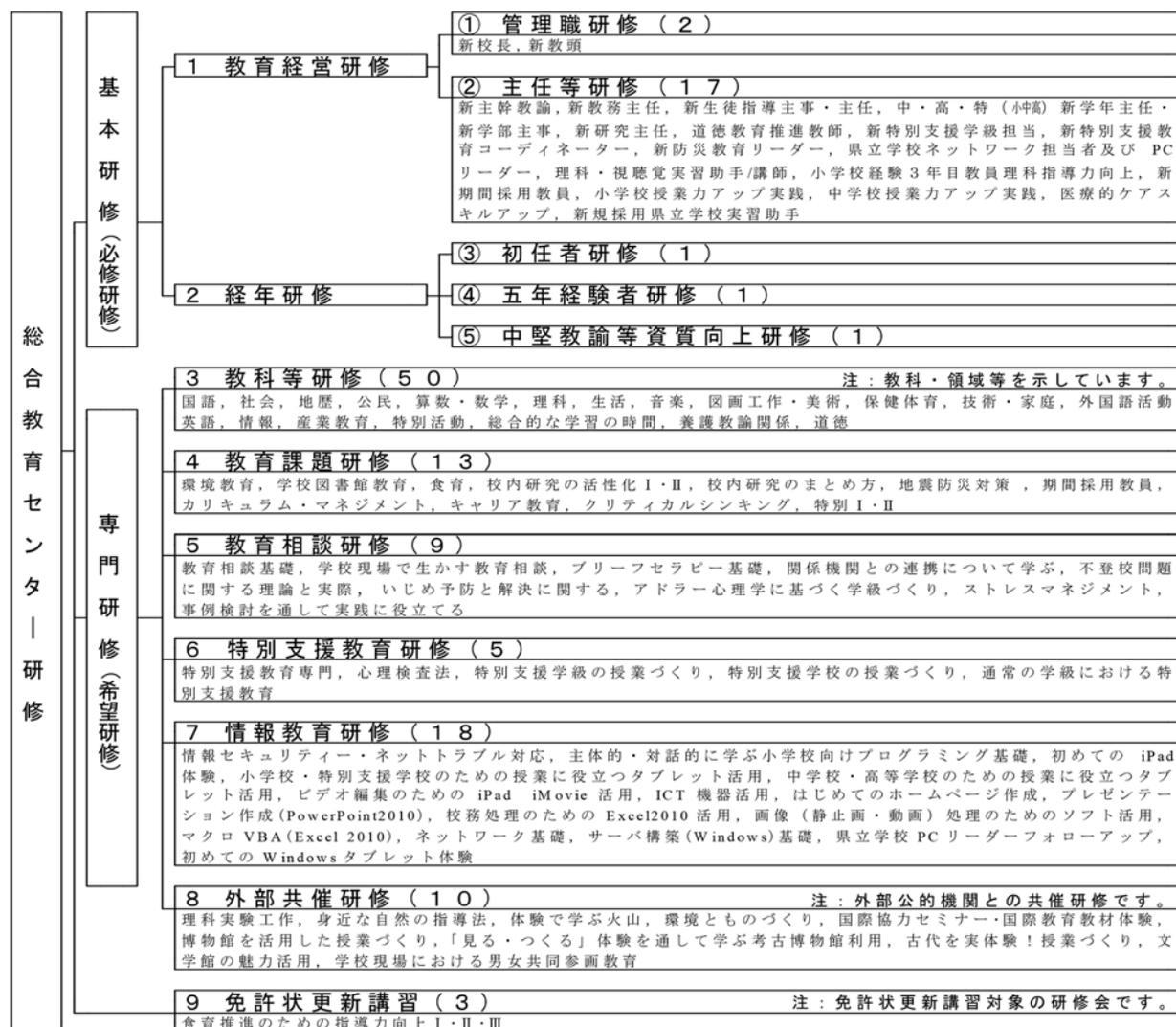
## 総合教育センター 研修指導部

山梨県総合教育センターでは、「学校教育を支援し、教職員の資質向上に資する研修会を目指して」をキーワードに、初任者・若手・中堅・ベテランすべての教職員に必要とされるキャリアが積めるような、ライフステージに合った研修会を企画しました。企画を行うに当たっては以下の4点に留意しました。

- 教職員の資質能力の向上に資する質の高い研修会を企画・実施する。
- 平素の教育活動に役立ち、指導に活用できる講座内容の構築に努める。
- 学校力・教師力の向上のため、校内研修・校内研究等を支援する。
- 研修会に「学校組織マネジメント」の視点を取り入れ、受講者に「当事者意識」を喚起することにより、研修成果の活用率の向上に努める。

このような認識の下、『平成29年度研修体系図』(下図)に示すように、様々な分野における研修会を企画しました。

平成29年度 山梨県総合教育センター研修体系図



計 130 研修

山梨県総合教育センターは、今年度も学校現場のニーズに寄り添った教職員の専門性や資質能力の向上に役立つ、より質の高い研修の提供ができるよう努めて参ります。

多くの先生方の研修会への御参加をお待ちしています。

## 少子化・人口減少社会に対応した活力ある学校教育推進

### 甲州市立神金小学校

平成27年秋より3年間にわたり、文部科学省の推進事業を受け、「先進的ICT環境が作り出す、小規模校発の21世紀型地域創生事業」に取り組んでいます。

内容は、①先進的ICT環境を活用した学力向上、②小規模校発 町おこしプロジェクト、③学校間連携ネットワーク構築・交流事業の実施、④複数校合同の同期型CSCL授業の4点です。

具体的には、①はタブレットPCを活用した体験型授業を行い、学力向上に取り組んでいます。②は学校林活動・「新たなふるさと学習」として地域活動へ積極的に参加をし、学んだことを成果として地域へ発信しています。③は大藤小、玉宮小、神金小3校交流活動として外部サーバーを経由しない安価なテレビ会議システムでの授業や協調学習支援システム「edutabbox」を使った教室内の無線ネットワークでタブレットPCへ接続し、協働学習を行っています。④については、3校をつないだ同期型授業を平成28年度に試行し、今年度への課題となっています。

また、ICTに親しむ中で情報モラル教育も課題となり、家庭の協力も得て、「アウトメディア」への取組も行っています。



平成28. 11. 4 タブレット授業



平成28. 6. 12 学校林活動



大藤・玉宮・神金テレビ会議



平成28. 11. 22神金シンポジウム

## 小中連携を生かした学力向上の取組について

### 甲府市立富竹中学校

富竹中学校区（富竹中・貢川小・新田小）では、昨年の夏休みに3校合同職員研修会を行いました。甲府市学力向上専門員の堀之内睦男先生を講師に、「小・中連携と『甲府スタイル』の授業」について講演していただきました。また、各学校の学力向上の取組の発表や3校の先生方をグループに分けての意見交換をしました。初めての研修会でしたが『甲府スタイル』の授業についてそれぞれの学校で取り組む根幹を学び、実践していくための研修会となりました。

富竹中学校では一昨年から、定期テスト前に「NoTV・スマホ・ゲームDay」の通知を保護者宛に出し、保護者の協力を得ながら、生徒が学習強化週間に学習に向かえるように取組を行っています。保護者のアンケートでは、TVやスマホから離れたことでテスト勉強に集中して取り組んでいるという感想が多くなってきました。中には、小学生がいるので、この取組は難しいという感想がありましたので、昨年度から小学校でもこの期間に「NoTV・スマホ・ゲームDay」に協力をしていただき、3校で連携して取組を始めました。今年度も更に取組を考えていきたいと思ひます。

今年度は夏休みに、3校合同職員研修会で「道徳」について研修をしていく予定です。また、新しい小学校学習指導要領に入ってきた「外国語」について、中学校の授業を小学校の先生に見ていただくように計画をしていきたいと思ひます。さらに、今まで行ってきた中学校の先生による出前授業や小中9年間で育てたい姿や授業規律についても確認し、小中連携を生かした実践を行い、富竹中学校区の児童生徒を育てていくように取り組んでいきたいと思ひます。



3校合同職員研修会



中1生による母校訪問の様子

## 特別展 フジフィルム・フォトコレクション 「私の1枚」日本の写真史を飾った101人

県立美術館

### 【内 容】

最初の写真術ダゲレオタイプがパリで公表されたのは1839年でしたが、日本にその技術が伝来するのはそのわずか9年後、幕末の1848（嘉永元）年のことでした。それから150年余り、日本では多くの優れた写真家が作品を残してきました。本展ではその中でも特に重要な101人の写真家が撮影した「この1枚」と呼べる代表作を展示し、日本写真史の軌跡を紹介します。

日本写真の黎明期を支えたフェリーチェ・ベアトや下岡蓮杖の作品を筆頭に、写真に絵画的表現を追求した20世紀初頭の芸術写真、独立した芸術としての写真を目指した1930年代の新興写真、戦前戦後に活動した林忠彦、植田正治、木村伊兵衛、土門拳などが見せた多種多様な表現、そして今日現役で活躍する写真家たちの作品など、日本写真史を語る上で欠かせない作品をぜひご覧下さい。1841（天保12）年に甲斐国に生まれた日下部金兵衛、富士山を多く撮影した岡田紅陽や白簾史朗など、山梨にゆかりのある写真家の作品も展示します。

### 【主な作品】



植田正治《パパとママと子どもたち》1949年  
富士フィルム株式会社蔵



白簾史朗《冬の晨 箱根姥子》1965年  
富士フィルム株式会社蔵

### 特別展 フジフィルム・フォトコレクション 「私の1枚」日本の写真史を飾った101人

日 時：平成29年7月1日(土)～8月20日(日)  
場 所：山梨県立美術館 特別展示室  
入場料等：一般1000円 大学生500円 県内65歳以上、高校生以下は無料  
問い合わせ先：県立美術館 TEL 055-228-3322

関連HP <http://www.art-museum.pref.yamanashi.jp/>

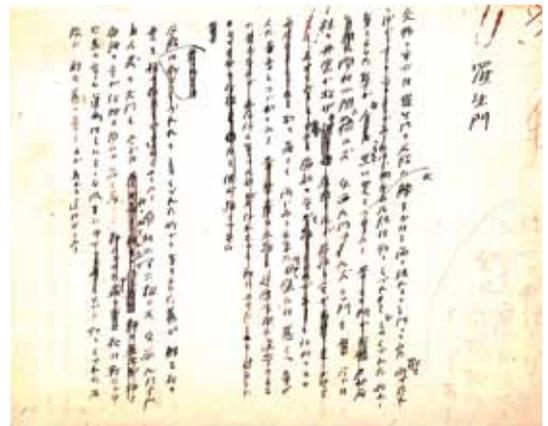
Click!

## 特設展「作家のデビュー展」

県立文学館

### 1 それぞれのデビュー

教科書や図書館などで名前を見かける有名な作家にも、作家として出発したばかりの時期がありました。はじめて発表した作品が大きな注目を集めた人、最初はあまり注目されなかったけれど何作か発表してから評価されるようになった人。作家としての第一歩は人それぞれです。本展では、山梨にゆかりの深い作家のデビューの頃に注目し、作品の魅力や、デビュー当時の抱負や悩みを紹介します。



芥川龍之介 「羅生門」関連ノート

### 2 展覧会のみどころ

高校の教科書でおなじみの芥川龍之介の小説「羅生門」は、芥川の第一創作集『羅生門』（1917年5月、阿蘭陀書房）のタイトルにもなった初期の代表作です。教科書の本文では、主人公の呼称は「下人」となっていますが、芥川がノートや原稿用紙に何度も書き直した下書きには、「一人の侍」「交野平六」「一人の男」「交野五郎」など、様々な呼び方が使われており、推敲を重ねた跡が見られます。

また、「太宰治」の署名で最も古い原稿とされる「陰火」原稿を展示します。本作は、1936（昭和11）年4月に「文藝雑誌」に発表された後、太宰の第一創作集『晩年』（1936年6月、砂子屋書房）に収録されました。その頃の太宰は、砂子屋書房で編集を担当していた浅見淵あさみふかしに何度も手紙を送っています。今回展示するのは、「早く自分の本を出したい」と何度も訴える、当時の太宰の気持ちが記された手紙です。



太宰治 「陰火」原稿

さらに、現在活躍中の山梨県出身作家のデビューの頃も紹介。林真理子氏「葡萄が目にしみる」草稿や、保坂和志氏、神永学氏、辻村深月氏が本展のために清書して下さったデビュー作の冒頭部分の原稿も公開します。また、人気漫画・文豪ストレイドッグスとのコラボレーション企画もあります。ぜひご観覧ください。

### 特設展「作家のデビュー展」

日 時：平成29年7月15日(土)～8月27日(日)

場 所：山梨県立文学館 甲府市貢川1-5-35

休 館 日：7月18日(火)、24日(月)、31日(月)、8月21日(月)

観 覧 料：一般320円／大学生210円 高校生以下の生徒・児童は無料

問い合わせ先：TEL 055-235-8080

関連HP <http://www.bungakukan.pref.yamanashi.jp/>

Click!

## 企画展「人類と宇宙－星空をめぐる歴史物語－」

県立博物館

夜空を見上げると、月をはじめ様々な星の輝きが目に映り、私たちを楽しませ、時として感動を与えてくれることもあります。星空に思いを馳せることは、地域や時代を問わず、人々がずっと続けてきたことと言えます。そればかりでなく、人々は太陽や月、その他多くの星を観測することで、日々の暮らしに活かすとともに、宇宙の謎を解き明かそうと研究を重ねてきたのです。そして現代では、人類は宇宙へと歩を進め、その研究は飛躍的な進展を遂げています。

県立博物館で夏休み期間中に開催する「人類と宇宙」展は、人々が宇宙とどのように関わってきたのか、その歴史を紹介する展覧会です。最古の天文図として知られるキトラ古墳（奈良県）の天文図や、鎖国の時代にわずかな西洋の知識をもとに高度な天文観測を試みた江戸の科学者に関する資料、現代におけるロケット開発の歴史や、人工衛星・探査機の実物大模型、小惑星探査機「はやぶさ」がイトカワから持ち帰った微粒子の実物資料などを展示します。太古の人々による宇宙観測から、最新の科学技術による宇宙開発まで、人々が宇宙に挑み続けてきた足跡をたどることで、広大で今なお謎に満ちた宇宙と、私たちが生きる地球をより身近に感じていただければと思います。夏休みはぜひ博物館で宇宙旅行をお楽しみください！

### 【関連イベント（予定）】 ※いずれも参加無料

#### ◆かいじあむ宇宙教室

日 時：7月29日（土）、8月6日（日）

13：00～15：40

会 場：生涯学習室

定 員：80名（要事前申込）

#### ◆星空観察会

博物館の芝生に寝ころんで星を見よう！

日 時：8月20日（日） 18：00～20：00

会 場：生涯学習室、お庭

定 員：100人（要事前申込、中学生以下は保護者同伴）

持ち物：レジャーシート（参加者が寝転べる広さのもの）

#### ◆かいじあむ子ども工房＜宇宙編＞

日 時：8月12日（土） 10：30～15：00（所要時間1時間程度）

会 場：ロビー 申込不要

※イベントの日程・内容は変更する場合があります。詳しくは博物館HPにてご確認ください。



### 企画展「人類と宇宙－星空をめぐる歴史物語－」

会 期：平成29年7月15日（土）～8月28日（月） ※会期中は無休

観 覧 料：一般500円、大学生250円 小・中・高・特別支援学校等の児童・生徒は無料

問い合わせ先：県立博物館 TEL 055-261-2631

関連HP <http://www.museum.pref.yamanashi.jp/>

Click!

## シンボル展「地下鉄90年－早川徳次、東京の地下を拓く－」

県立博物館

今年の12月で、わが国最初の地下鉄である浅草・上野間（現在の銀座線の一部）が開業して90周年を迎えます。開業時のキャッチコピー「東洋初の地下鉄道」にもうかがえる交通史上に残るこの偉業は、山梨県出身の人物によって果たされました。

その名は早川徳次。東八代郡御代咲村（現在の笛吹市一宮町）出身の人物です。早川は一介の青年でありながら、後藤新平や根津嘉一郎の信頼を得て、鉄道の経営に手腕を発揮するようになります。後藤からは、このような歌を贈られています。

「寢覚め良き 事こそ成さめ 世の人の 悪しと良しとは 言ふに任せて（眠りから覚めるような事を成し遂げなさい。世間の人の評判は気にせずに）」

早川は後藤や根津の薫陶を受けたのち英国へ渡り、ロンドンで地下鉄を目撃して、帝都・東京での必要性を痛感し、まさに「寢覚め良き」ことである、「東洋初の地下鉄道」の実現へと邁進することになります。本展を通じて、早川の先見性や情熱、人作りの精神のほか、地下鉄がわが国の発展に果たした役割について、考えていただきたいと思えます。

### 【関連イベント】 ※参加無料

#### ◆かいじあむ古文書講座

##### 「鉄道に関する古文書を読む」

日時：6月24日（土）13：30～15：00

会場：生涯学習室

- ◆その他、体験イベントや講演会、学芸員によるギャラリートークを開催予定。詳しくは博物館HPにてご確認ください。



起工した地下鉄の現場での早川徳次  
（個人蔵）

## シンボル展「地下鉄90年－早川徳次、東京の地下を拓く－」

会 期：平成29年5月27日（土）～6月26日（月） ※火曜日休館

観 覧 料：常設展観覧料でご覧いただけます（一般510円、大学生210円）

小・中・高・特別支援学校等の児童・生徒は無料

問い合わせ先：県立博物館 TEL 055-261-2631

関連HP <http://www.museum.pref.yamanashi.jp/>

Click!

## 山梨近代人物館

学術文化財課

### 山梨県指定文化財としての県庁別館－情報展示室と旧知事室－

山梨近代人物館は、平成21年（2009）12月24日に「山梨県庁舎別館（旧本館）及び県議会議事堂」として山梨県指定文化財になった県庁別館の改修工事の際して、同館内に整備された施設です。これまで展示の内容として、紹介している人物のあらましをご紹介してまいりましたが、今回は山梨県指定文化財としての県庁別館について紹介している情報展示室と旧知事室についてご紹介いたします。



建設当時の県庁別館

情報展示室には、人物の関連情報が検索できる「人物アーカイブ」端末のほか、県庁別館の概要や改修工事について紹介したパネルのほか、門標や軒丸瓦といったゆかりの資料の数々も展示しております。もともと山梨県庁は、現在の甲府市役所の位置にあたる甲府城の追手門外で甲府錦町にあった甲府勤番支配役宅跡に置かれ、明治10年（1877）には同地に「ギヤマン堂」とも称された藤村式建築による県庁舎が建てられました。この庁舎の老朽化と狭隘化に伴い、県会議事堂とともに旧制甲府中学校（現在の甲府第一高等学校）が使用していた甲府市橘町の旧甲府城楽屋曲輪へ、昭和3年から5年にかけて新築移転することとなりました。県庁別館は、耐震設計の第一人者でもあり、本県出身の建築家内藤多仲博士の師匠にもあたる佐野利器東京帝大教授が顧問として指導にあたりました。建築費用は当時の費用で約100万円（議事堂を含む）。構造は鉄筋コンクリート製ですが県内産の大理石も使われ、建築を俯瞰すると「山」の字形であるほか、県章の意匠が軒丸瓦に使われたり、内装に葡萄文様を取り入れられるなど、山梨らしい郷土色豊かなものとなっております。情報展示室では、建築当時の図面の一部や軒丸瓦のほか、かつて別館に使用されていた「山梨県庁」の記された門標を展示しております。



かつて県庁別館で使われていた門標



画像解析によって見えた「山」マークと葡萄模様（上）と再現された絨毯

平成27年（2015）3月まで行われた県庁別館の改修工事は、極力県指定文化財としての価値を損なわないように行われましたが、その文化財としての価値を紹介するため、旧知事室については建設当時の姿を再現することを目指しました。内装・家具については、当時の施工業者が保管していた完成時の写真や、現存する調度品、カーテンなどをもとに復元が行われました。旧知事室に敷き詰められた絨毯も、古写真を解析したところ、山梨県の県章や葡萄など、郷土色豊かな意匠が施されていたことが判明し、再現品の製作が行われました。

山梨近代人物館では、山梨ゆかりの人物たちの活躍のほか、このような文化財としての県庁別館や県政のあゆみについても紹介しています。噴水やライトアップの演出も美しい、山梨の近現代のあゆみの「生き証人」とも言える、県庁別館の魅力についてもぜひ触れてみて下さい。

## 山梨の文化財

学術文化財課

### 県指定有形文化財

もくぞうしょうくんじぞう きばぞう いっく つけたり くでんくみものふたくみ こまいぬ にく  
**木造勝軍地蔵騎馬像 一驅 附 宮殿組物二組 狛犬二驅** (山梨市清水寺)

平成29年3月2日指定

本像は、円光院勝軍地蔵像と同じく甲冑姿の勝軍地蔵像の初期作例ですが、円光院像とは異なって、独尊の彩色像となっており、騎馬形とするのも異っております。本像は、左手を高く振り上げ、右肘を強く張って白馬に跨がる颯爽とした姿に表され、鼻筋通り、切れ長の目尻を吊り上げた相貌は、若武者のようでもあり、かつ神像のような厳しさをも合わせみせています。円光院像が、勝軍地蔵の本来の姿である地蔵菩薩を思わせる菩薩形の相貌であるのとは、かなり異なるこの相貌の表現は、やはり本像が神社に祀られたためと考えられます。当初、本像が安置されていた宮殿は、現在伝えられる組物からも華麗な姿であったことが窺われ、正面に置かれた狛犬も顔面は失われているものの優れた出来ばえで、往時の華やかな安置の様を伝えています。

本像はこのように、作行き優れ、恵林寺像、円光院像とともに武田信玄に関わる造像として重要であり、また、近世に入り、愛宕信仰と習合して作例が増える騎馬形の勝軍地蔵像の最初期作例として、勝軍地蔵信仰を考える上でも重要な作例です。



## 「しなやかな心」の育成プロジェクト「家族で元気UP！」教室

教育庁スポーツ健康課

- 【期 日】平成29年10月14日(土)
- 【時 間】9:30~11:40
- 【場 所】小瀬スポーツ公園・サブアリーナ(甲府市小瀬町840番地)
- 【対 象】幼児や小学校低学年(3年生以下)のお子さんとその保護者
- 【持ち物等】室内シューズをお持ちの上、運動ができる服装で御参加ください。
- 【申込方法】「スポーツ健康課 学校体育担当」のHPから所定の申込書をダウンロードし、必要事項を御記入の上お申し込みください。



<http://www.pref.yamanashi.jp/sports/gakutaitop.html>

Click!

「元気な子ども」は「元気な家族」から！キーワードは“家族で運動”です！



講師に、山梨県立大学 人間福祉学部 人間形成学科 学科長 高野牧子先生をお招きし、親子で楽しく運動できる「遊び」をたくさん紹介していただき、実際に体を動かします。お友達をお誘いの上、奮って参加ください。



【問い合わせ先】

教育庁スポーツ健康課  
 学校体育担当  
 Tel 055-223-1783  
 Fax 055-223-1786

# 「青少年の非行・被害防止県民大会」の開催にむけて

～ 7月は青少年の非行・被害防止全国強調月間です～

教育庁社会教育課

## 1 趣旨

山梨の未来を担う青少年が夢と希望に満ち、心身ともに健やかにたくましく成長していくことは、県民すべての願いであり、そのためには社会全体で青少年を取り巻く問題を真摯に受け止め健全な社会環境づくりに取り組むことが必要です。

急速に進む少子高齢化をはじめ、情報化等の進展など青少年を取り巻く社会環境は大きく変化し、非行やいじめ、薬物乱用、スマートフォン・インターネット等の利用に伴う風評被害や詐欺被害の増加など、青少年をめぐる問題は複雑かつ深刻化しています。

平成28年における本県の刑法犯少年の検挙補導人員は191人で、前年より70人減少しています。また不良行為で補導された少年は4,521人と前年より989人減少してはいるものの、依然として予断を許さない状況にあり、非行の未然防止と早期発見・早期対応が望まれています。

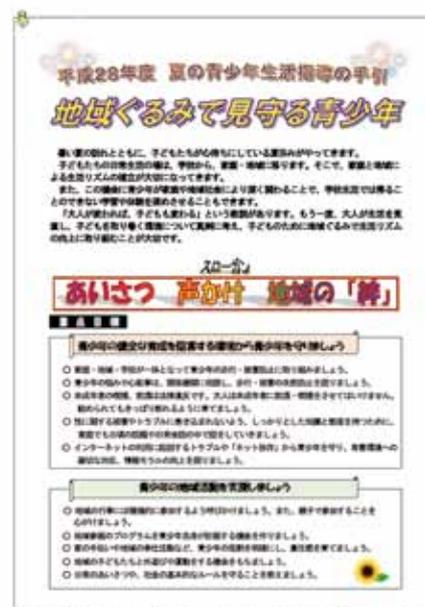
また、今日の社会状況をみると、青少年が犯罪に巻き込まれやすい環境や有害な情報が氾濫しています。そのような中で、少年の非行や事故、犯罪被害を防ぐために、犯罪の恐ろしさについて青少年に具体的に教え、正しい判断・選択を行うための力をつけることができるよう、早い時期から段階的に非行・犯罪の被害防止教育を行うことが求められています。

このような状況を踏まえ、大人は一人ひとりの青少年を健やかに育むために、青少年の非行・被害防止を社会全体の責務としてとらえ、「やまなし子ども・若者育成指針」に掲げた関連施策を着実に推進するとともに、家庭・学校・地域、関係機関及び関係団体等が相互に連携し、一体となった取り組みを全力で進めることが重要です。

県では、内閣府主唱の「青少年の非行・被害防止全国強調月間」（7月）に呼応し、青少年の非行・被害防止について、県民の理解を深め、行政はもとより関係機関・団体、地域住民等が相互に連携・協力し、青少年の規範意識の醸成及び有害環境への適切な対応を図るなど各種の取りくみを集中的に実施する予定です。



昨年度（H28年度）の県民大会の様子



昨年度（H28年度）のチラシ

## かいじあむの夏まつりのお知らせ

県立博物館

8月のお盆休みには、毎年恒例「かいじあむの夏まつり」を開催しております。夏ならではの体験や工作をご家族でお楽しみください。

■開催日時 平成29年8月14日（月）、15日（火）  
午前10時から午後4時（昼12時から1時はお休みです。）

■会場 山梨県立博物館 館内各所

■開催イベント

### ○主なイベント

- ・「水鉄砲であそぼう」
- ・「ペットボトルロケットを飛ばそう」
- ・「うちわ作り」
- ・「ヨーヨーつり」
- ・「紙芝居」
- ・「おじいちゃんが語る“戦争体験”」
- ・「おすいとんを食べよう」

などを行う予定です。

※事前申込不要ですが、イベントにより当日受付（先着順・定員あり）を行います。

※開催日によってイベント内容が異なります。詳細は、当館ホームページやチラシなどでご確認ください。

※当日は、企画展「人類と宇宙 ー星空をめぐる歴史物語ー」を開催しております。こちらもぜひご覧ください。



### 【問い合わせ先】

県立博物館 〒406-0801 山梨県笛吹市御坂町成田1501-1

TEL: 055-261-2631 FAX: 055-261-2632

関連HP <http://www.museum.pref.yamanashi.jp>

Click!

## 考古博物館開催の講座・セミナーのお知らせ

県立考古博物館

■ 考古博物館では、年間を通して歴史・考古学に関するさまざまな講座やセミナーを開催しています。教科書には載っていない身近な地域の歴史を再発見しませんか。

### ● 館長講座 萩原三雄館長が語る「戦国大名武田氏の考古学」

- 第2回 平成29年 6月17日(土) 「新府城炎上と武田勝頼」  
第3回 平成29年 8月12日(土) 「景德院武田勝頼の墓所の発掘」  
第4回 平成29年10月14日(土) 「躑躅ヶ崎館(武田氏館)の天守台の謎」  
第5回 平成29年12月16日(土) 「武田氏を支えた土豪たちの世界」  
第6回 平成30年 2月24日(土) 「武田氏と金山衆」  
※各回とも午後1時30分～午後3時、定員80名、事前申し込み不要(第1回は終了)。

### ● 考古学講座 「石の文化史」

- 第1回 平成29年6月3日(土)  
講師：山梨県埋蔵文化財センター 柴田 亮平 氏  
「石材の獲得・流通・使用—旧石器・縄文の生活と石—」  
第2回 平成29年6月24日(土)  
講師：北杜市教育委員会 村松 佳幸 氏  
「配石遺構と石棒—縄文時代の信仰と石—」  
第3回 平成29年7月15日(土)  
講師：山梨県埋蔵文化財センター 熊谷 晋祐 氏  
「山梨の石室と積石塚」  
第4回 平成29年8月5日(土)  
講師：山梨県教育庁学術文化財課 久保田 健太郎 氏  
「自慢の石積み技術」

※全回通しての受講、または第1回のみ受講希望の方は5月6日(土)から、以降の各回は開催日の1か月前から受付を開始します。電話またはホームページの電子申請からお申し込み下さい(各回定員80名、開催時間は午後1時30分～午後3時)。

※館長講座・考古学講座の会場は風土記の丘研修センター(甲府市下向山町1271)です。

### ● 史跡文化財セミナー：専門の講師による解説とともに歴史路をめぐります。

- 第2回 平成29年7月30日(日) 第71回「芦川の里を歩く」  
第3回 平成30年3月11日(日) 第72回「大善寺周辺と勝沼宿を歩く」  
※開催日の1か月前から受付を開始します。電話またはホームページの電子申請からお申し込み下さい(第1回は終了)。

#### 【問い合わせ先】

山梨県立考古博物館 〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町923  
TEL:055-266-3881 FAX:055-266-3882

.....  
関連HP <http://www.pref.yamanashi.jp/kouko-hak/>

Click!

## 新教育委員に 三塚 憲二 氏が就任しました

県教育委員会では、白川太委員の任期満了に伴い、後任の教育委員として三塚憲二氏が知事から任命されました。新委員の任期は平成二十九年三月二十七日から平成三十三年三月二十六日までです。



新委員  
三塚 憲二

子供達が心身ともに健やかに育つことは、私達の願いであり、将来の国・県を担い社会の活力を生む宝と思っています。乳児期での教育は、概ね保護者の手に委ねられる、いわば『他律的』なものであり、成人期以降は、自らの意思決定や行動選択を行う『自律的』なものです。その間の学童期は、転換期といえ、学校教育は教師と保護者との協力関係のもと、心身ともに健やかな子供達を育む人間形成の上で最も大切な時期と思っています。子供達への教育は国の教育基本法に基づき施策としての『教育振興計画』に則り、各都道府県で取り組んでいるところですが、様々な課題もあることは言うまでもありません。そのためにも、できるだけ子供達と先生方との直接的にふれあえる時間をつくる現場づくりが必要と考えています。歯科医師として、学校において歯・口の健康づくりに関わってきた経験を生かし、山梨の未来を築く子供達の『生きる力』を育むための一助となればと思っております。

### 訪問型特定保健指導を実施しています

公立学校共済組合山梨支部では、本部で一括契約を行っている外部委託業者「SOMPO リスクアマネジメント(株)」による訪問型特定保健指導を実施しています。

特定健康診査は、40歳以上を対象に、定期健康診断や人間ドックの受診時にメタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)に着目し、生活習慣病と言われる糖尿病や高血圧症、脂質異常症のリスクの有無を検査しており、その結果をもとに、生活習慣の改善が必要と判断された方に対し、保健師・管理栄養士が、対象者の所属所へ訪問し、特定保健指導(積極的支援・動機付け支援)を行います。これまで多忙で保健指導を受けることができなかつた方も、所属所で気軽に受けられますので、積極的にご利用ください。

	積極的支援	動機付け支援	参 考
	SOMPO リスクアマネジメント(株)に委託実施		特定保健指導以外の巡回相談
小・中学校 市立高校 大学等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小中学校：全地域</li> <li>○市立高校：甲府商業高等学校・甲陵高等学校</li> <li>○大学等：山梨県立大学・都留文科大学・大月短期大学</li> </ul>		県教職員互助組合が、巡回指導・健康相談を実施(小・中学校のみ)
県立・事務局	県立学校・事務局全体		福利給与課が、巡回健康相談を実施

特定保健指導についての詳細は、厚生労働省ホームページ「e-ヘルスネット」をご参照ください。

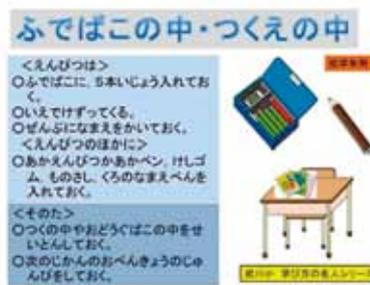
<https://www.e-healthnet.mhlw.go.jp/information/metabolic/m-04-002.html>

Click!

## 北杜市立武川小学校 <http://mukawasyo.seesaa.net/>

Click!

本校のHPは、2008年度からブログ形式に移行し、学校の様子をリアルタイムで伝えています。また、学校・家庭・地域が「チーム武川」として同じ歩調で子供たちを育てようという観点で「かけ橋」という冊子を作成し、学校HPに公開しました。今後も本校の教育活動をよりよいものにできる情報発信の場にしていきたいと思ひます。



Click!

## 大月市立大月東中学校 [http://blog.goo.ne.jp/otsuki\\_higashi\\_jhs](http://blog.goo.ne.jp/otsuki_higashi_jhs)

本校では、学校生活の様子を随時ブログにアップして公表しています。学校からの便りにはブログのQRコードを印刷し、閲覧を呼びかけています。修学旅行や学園祭などのビッグイベントの情報を上げると、1日で延べ1万を超えるアクセスがあります。



## 「第3次山梨県子ども読書活動推進実施計画」を策定しました

教育庁社会教育課

### 1 計画の概要

県では、子どもの読書活動を推進するための「山梨県子ども読書活動推進実施計画」について、平成29年3月に第3次計画として改訂し、公表しました。

子どもの読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものです。

子どもたちに『想像力や自分で考える力、豊かな感性や情操、思いやりの心を育てるために、生涯にわたる読書習慣を確立』させましょう。(『 』内第3次実施計画目標、H29.3～)

### 2 計画の実現に向けて

本県の子どもの読書活動は、これまでの取り組みが奏功し、「学校での一斉読書活動の普及率」、「家庭内での親子読書の機会」、「小・中学校図書館の充実率」等で、全国平均を上回りました。

しかし、学齢が上がるにつれて高くなる「授業以外での不読者率」、「図書室、図書館を利用しない人の割合」や、「ボランティアの一層の資質向上」等、改善すべき課題も確認されました。

こうした課題には、家庭、地域、学校、図書館、行政が連携し、社会全体で継続して、息長く取り組んでいく必要があります。

県でも、第3次計画の実現のために、数値目標を設定し、様々な取り組みを支援していきますが、まずは、大人が読書に親しみ、読書が当たり前に行える環境を整えていくことが大切です。

それぞれの立場で、果たすべき役割を意識して、読書による子どもたちの豊かな未来を実現させましょう。

※詳細を県HPに掲載

(山梨県社会教育課で検索)

## やまなしワクワク子育て親育ちプログラムの活用について

教育庁社会教育課

### 1 目的

県教育委員会では、多くの若い方々が自信を持って子に向き合い、子育ての楽しさを実感できるようにするため、教材『やまなしワクワク子育て親育ちプログラム』を刊行し、現在、各種学習講座などにおいてご活用いただいています。

子どもを産み育てることは、子どもと共に自らが成長し、生活の質の向上にもつながるといふ、子育てを肯定的に捉える意識を大切にしてほしいと考えています。

### 2 本教材の特徴と構成

この教材の特徴は、講師の話を聴講する講義型ではなく、自分のこととして参加しながら、「こころ」、「からだ」、「コミュニケーション」、「生活」、「家族」の5領域を、手軽に楽しく、また、自らを振り返りながら主体的に学び合うところにあります。

また、乳幼児期から中学生までの子どもを持つ保護者のほか、将来、親となる中学生・高校生等も対象としており、親同士が学びあうことで子育ての不安や悩みを解消し、自信をもって子どもに向き合うプログラム、子育ての楽しさを実感するプログラム等、36のプログラムで構成されており、集まった方たちの興味や問題意識に基づいて内容を選択することができます。



下記HPからダウンロードできますので、お気軽に、保護者会やPTAの研修会、子育て支援者による集会等でご活用ください。

### 「第3次山梨県子ども読書活動推進実施計画」について

[http://www.pref.yamanashi.jp/shakaikyo/kodomo\\_dokusho\\_keikaku.html](http://www.pref.yamanashi.jp/shakaikyo/kodomo_dokusho_keikaku.html)

Click!

### 「やまなしワクワク子育て親育ちプログラム」については、

<http://www.pref.yamanashi.jp/shakaikyo/wakuwakukosodateoyasodatisassi.html>

Click!

県HP（県教育委員会→社会教育課）をご覧ください。

# 「山梨県立博物館協力員」として活動してみませんか？

県立博物館

山梨県立博物館は、今年で開館12年目を迎えます。この間、多くの皆様に利用され、親しまれてきました。そのような県立博物館の活動を、これまで途切れることなく支え続けてきたのが「協力会」というボランティア団体です。山梨県立博物館では、新たに活動していただける協力員さんを随時募集しています。

## 1 目 的

県立博物館の運営・活動に協力していただき、それらをおして、よりきめ細かなサービスを行い、開かれた博物館をめざすことを目的とします。

## 2 活 動

博物館協力員は、必要に応じて次の活動を行います。

- |  |                        |
|--|------------------------|
| (1) 鑑賞・学習のための助言及び相談                    | (2) 来館者の誘導、案内及び体験活動の補助 |
| (3) 図書、資料、写真などの整理                      | (4) ミュージアムショップの運営      |
| (5) イベントや博物館運営の補助                      | (6) 畠の耕作など野外施設の管理      |
| (7) その他、来館者の鑑賞や学習に寄与する活動、博物館の発展に寄与する活動 |                        |

## 3 条 件

- (1) 山梨県立博物館の活動に理解と関心を持ち、積極的に館の活動に協力していただける方
- (2) 博物館活動の一端を担っていただくため、館長が協力員として委嘱します
- (3) 月1回以上の活動が可能な方
- (4) 満18歳以上の方
- (5) 協力員は無報酬です（交通費、食事代等も自己負担となります）
- (6) 1期2年の委嘱とします（再任は妨げません）
- (7) 協力員の皆様には、県立博物館協力会に入会していただいております（年会費1,000円）

## 4 応募の方法・申込先・募集期間

- ・応募方法：山梨県立博物館にご連絡ください。所定の用紙をお渡しいたします。  
所定の用紙に必要事項を記入し、年会費1,000円と共に直接ご持参ください。
- ・申 込 先：山梨県立博物館企画交流課 協力員募集係  
〒406-0801 笛吹市御坂町成田1501-1  
電 話：055-261-2631(代)  
F A X：055-261-2632
- ・募集期間：随時受け付けています。

## 5 募集人数及び活動内容の決定

- (1) 募集人数 おおむね100名
- (2) 応募された方を対象にアンケート調査やヒアリング（聞き取り）を行い、活動内容を決めさせていただきます。

## 6 研 修

活動していただく内容に必要な研修を行います。



～お庭ガイド（毎月第3土曜日）の様子～